

第8回 石西礁湖自然再生事業支援専門委員会 議事概要

日時：平成20年6月14日（土） 09：00～10：00

場所：環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

出席者：

委員

大見謝辰男：八重山福祉保健所生活環境班 生活環境班長

岡本峰雄：東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 准教授

鹿熊信一郎：沖縄県八重山支庁農林水産整備課漁港水産班 主幹

土屋 誠：琉球大学 理学部長

灘岡和夫：東京工業大学大学院情報理工学研究科 教授

野島 哲：九州大学大学院理学府附属臨海実験所 准教授

宮城俊彦：沖縄県衛生環境研究所 環境科学班長

環境省

安田直人：那覇自然環境事務所 統括自然保護企画官 次長

小林靖英： " 国立公園・保全整備課 自然保護官

廣澤 一： " 石垣自然保護官事務所 自然保護官

佐藤崇範： " 石垣自然保護官事務所 自然保護官補佐

（沖縄総合事務局）

嶋倉康夫：石垣港湾事務所

（沖縄県）

宮良道子：文化環境部自然保護課

（その他）

記者：1名（八重山毎日新聞）

議題：

（1）平成20年度の自然再生事業について

（2）サンゴ礁年関連イベント（東アジアのシンポジウム）について

（3）その他

概要：

(1) 平成20年度の自然再生事業について

環境省より、今年度の自然再生事業についての説明を行った。事業概要は下表のとおりである。

大分類	事業名	調査概要
調査研究・モニタリング	1. 石西礁湖サンゴ礁保全総合調査	(1)サンゴ群集変動調査 (2)自然再生手法検討調査 (3)オニヒトデ分布調査 (4)常時モニタリングシステム維持管理及び海況解析 (5)今までの調査結果等の評価及び今後の方針の検討
	2. 石西礁湖におけるサンゴ礁生態系保全のための統合的環境管理に関する調査及び普及啓発事業	(1)持続的な産業に関する調査 (2)サンゴ礁攪乱要因に関する調査 (3)統合的環境管理手法の検討 (4)普及啓発事業
	3. 石西礁湖自然再生協議会及び関連	(1)石西礁湖自然再生協議会及び石西礁湖自然再生事業支援専門委員会の開催・運営補助 (2)自然再生ホームページの作成・更新及びポータルウェブサイトの設置
サンゴ群集の修復	1. サンゴ群集修復工事	サンゴ幼生着床具種苗を用いた移植を実施
	2. サンゴ群集修復工事監理業務	移植工事に係る施工監理 (上記1. で実施する移植工事に係る施工監理として実施)
	3. サンゴ群集修復事業(着床具設置工事)	サンゴ群修復事業に用いる着床具を海底に設置
	4. サンゴ群集修復事業(着床具設置工事施工監理業務)	・着床具設置工事に係る施工監理 (上記3. で実施する着床具設置工事に係る施工監理として実施) ・着床具畜養及びモニタリング(平成19年度設置分) ・移植種苗の維持管理及びモニタリング(平成17~19年度移植分)

【質疑応答】

委員：2.(3)にある「統合的環境管理手法の検討」は本委員会でやることとオーバーラップしているように思うが、どのように検討するのか。

環境省：委託先での調査結果を踏まえて考えていきますが、随時支援専門委員会の中でまたフィードバックして、ご意見いただきたいと考えている。また、非常に大きなテ-

マとして捉えているので、基本的な考え方をまとめていって、環境省としての支援のあり方について時間をかけて考えていきたい。

委員：2.(2)の中に赤土や栄養塩の拡散範囲を把握し影響を推定するとあるが、かなりのシミュレーションをやらなければならないが、どうするのか。

環境省：1年間で結果が出るとは思っていない。何年か継続するものと考えている。シミュレーションについては、データ等も含めて先生とご相談させて頂きたい。

委員：陸域の負荷量関連は、他の事例があるので、まず情報を収集してから始めるのが良い。

委員：今年度の調査計画が、(環境省の)自然再生事業実施計画とどのような関係があるのかを明確にすると(調査の全体像が)わかりやすくなる。

(2) サンゴ礁年関連イベント(東アジアのシンポジウム)について

環境省より、今年度予定しているサンゴ礁年関連イベント(東アジアサンゴ礁保全国際シンポジウム2008(仮称))についての説明を行った。

【質疑応答】

環境省：シンポジウムのコンセプトとゲスト案について、意見を頂けるとありがたい。現時点で決まっているのは、石垣で実施すること、予算は100~200万前後であることである。また、ゲスト案としては、何度か日本にも来日されていて、沖縄の海をある程度ご存じで、石西礁湖を適正に評価できる方を望んでいる。日本から野島先生、台湾から台湾大学のDai先生、フィリピン大学からFortes氏、フィジーの南太平洋大学からRandy Thaman氏を考えている。

委員：同時通訳は付けた方が良い。

委員：環境省(本省)で計画されているNPOネットワークの会議とはどういう仕分けになっているのか。海外の人を呼んで、東アジア海域におけるという文言が頭出しされているわけだから、ここでの保全の取り組みをもっとアピールするし、フィードバックするなど、将来展開を意図したような戦略的な発想があってしかるべきじゃないかと思う。

環境省：石西礁湖を主題として、我々にとってプラスになるような趣旨で考えている。また、こちらから石西礁湖のことをある程度紹介してから参加してもうのも良いかもしれない。

委員：石西礁湖に特化してやった方が良い。環境省が3年計画で東アジアとの相互連携等の戦略的にやろうとしているので、それとバッティングしない方が良い。石西礁湖では、10月にやって、11月の東京の会議にその成果をぶつけるぐらいの感じで、石西礁湖では国際会議としてやって、こういうのが出ましたというぐらいの位置づけが良いのではないか。

委員：ゲストについては、予算の都合もあるので、3名で良いのでは。インドネシアの

ハサヌディン大学の Jamaluddin Jompa などかどうか。サンゴ移植にも関係している。

委員：フィジーの Randy Thaman 氏より、もう少し実際にサンゴ礁と直接関わっている人のほうが良いのではないか。

委員：サムラトランギ大学のラマンティックはどうか。北スラウェシを押さえているキーパーソンである。

委員：今回のシンポジウムにおける具体的なアウトプットは何か。

環境省：自然再生に関係している地域の人々が参考になるような情報を得ることが一番の目的と考えている。

委員：ゲストを決めるためには、シンポジウムのねらいをどの辺にするかということが重要になる。

委員：コミュニティの関係で、いろいろなステイクホルダーが関心を共有して、何かしようというスキームづくりというのは結構熱心なところが多い。そういうのは、参考になる。

委員：科学的な話はほとんど参考にならないだろう。

委員：取り組みの姿勢というか、コミュニティとの関係、関わり方については熱心なのでいろんな事例があるだろう。

委員：上記（サンゴ礁保全再生と地域コミュニティ）のテーマで、候補者などはおられるか。

委員：台湾の Dai 先生は、基本的にはサンゴの生物屋だが、こちらからこれについて話してくれと言え、話せる人である。また、石垣島と台湾が近いのも良い。

環境省：ゲストは、今回ご紹介頂いた Dai 先生、Fortes 氏、ラマンティック氏、Jompa 氏を中心に検討し、再度相談させて頂きたい。

（閉会）

以 上